

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 THIPPAWAN BOONYAPERM
(ブウンヤパーアム チィポワン)

貿易の自由化は、近年の国際社会の新しい概念であり、世界貿易機構（WTO）の枠組みは、製品のみならず、サービス分野の貿易に関する一般協定（GATS:the General Agreement on Trade in Services）や知的財産権協定（TRIPS:Agreement on Trade-Related Aspects of Intellectual Property Rights）にまで及んでいる。

海外からの資本参入を国内市場の法律や規則という障壁から開放するために、ASEAN 諸国においてGATSが強制的に施行された。1993年、タイ国は、サービスに関わる10分野をWTOの枠組みで取り扱うこととし、建設産業はその1分野となった。したがって、タイ国の建設企業は、国際競争に備える必要に直面している。

本論文は、タイ国建設産業の歴史的経緯および現状を調査研究し、現在のタイ国建設産業の国際競争力の水準を明らかにすると共に、国内および国際建設市場における国際競争力を向上させるタイ国建設産業の戦略的方策を提言することを目的としている。

国際競争力に関するモデルや理論に関する数多くの文献調査を行ったが、建設産業に適合するものが見つからなかったため、建設市場における国際競争力の概念を説明できる新しい国際競争力モデルを構築している。すなわち、建設産業の国際競争力を、政府の建設産業政策（以下産業レベルと称す）、建設企業経営戦略（以下企業レベルと称す）、および建設プロジェクト管理（以下プロジェクトレベルと称す）という3つの視点から総合的に分析することが適切としている。建設界の専門家への詳細な聞き取り調査および文献調査の結果に基づき、産業レベルは、政治と法律、マクロ経済、社会文化、および科学技術に関わる4つの要素、企業レベルは、戦略、組織、マネジメント、心理、および技術技能に関わる5つの要素、プロジェクトレベルは、管理、会計経理、および建設技術に関する3要素に分類し、建設産業の国際競争力を説明する3つの視点に影響を与える主要な要素を特定している。これらの主要な要素を、さらに、それを構成する競争力を規定する数多くの副要素（サブ項目）に分類している。

本論文で構築した建設産業の国際競争力モデルに基づき、3種類のアンケート調査を実施し、産業、企業、およびプロジェクトの各レベルについて、各要素の競争力に関する様々な立場の人々の評価データを収集している。アンケート結果に基づき、主要な要素とサブ項目の評価得点を計算する記述的分析を行い、次に、戦略的な影響度の重み付けを明示

するために、各項目をクラスター分類するための要因分析を行っている。記述的分析の場合、競争力得点を1から7の得点幅で評価し、国際競争力を表現するために、競争力が劣る低位、標準的な中位、競争力が優れた高位という3段階に分類している。

アンケート調査の記述的分析結果から、産業レベルは、政治と法律、マクロ経済、および科学技術が低位、社会文化は中位に位置づけられた。企業レベルは、戦略、組織、および技術技能が高位、マネジメントおよび心理は中位に位置づけられた。プロジェクトレベルは、管理、会計経理、および建設技術は中位に位置づけられた。

本論文は、国際競争力を説明する数多くの項目を、要因分析を行って重要度に応じてクラスターに分類している。産業レベルでは、サブ項目を、競争力の重み付けの大きさに応じて6グループにクラスター分類し、1番目には、労働力、管理、科学技術、教育、および科学技術基盤、2番目には、投資、マーケティング、および研究と技術開発、3番目には、国内経済、金融、および雇用、4番目には、政治と社会基盤施設、5番目には、法律と規則、および専門家組織、6番目には、国際化が含まれるとしている。企業レベルでは、6グループにクラスター分類し、1番目には、企業理念、組織特性、政府の統治力、管理過程、オペレーションとマネジメント、労働力、モチベーション、および情報、2番目には、権力構造と影響力、市場戦略、科学技術、知識および施設と設備、3番目には、法律と規則、組織構造、および文化的影響、4番目には、投資家、および経済安定性が含まれる。5番目には、財源の安定性が含まれる。そして6番目には、情報伝達が含まれるとしている。プロジェクトレベルでは、4グループにクラスターに分類し、1番目には、品質と効率性、安全性と福利厚生、資金供給、建設、および設備管理、2番目には、経理状況、直接コスト、間接コスト、および仮設工事、3番目には、制約条件、4番目には、運営管理状況および労働力が含まれるとしている。

タイ国の建設産業の戦略的方策を提言するために、本論文で提案した競争力得点および競争力の重み付けの2項目から構成される2次元の競争力評価マトリックスを、産業レベル、企業レベル、およびプロジェクトレベル毎に作成し、サブ項目を各々の算定結果に応じて配置している。その結果、各サブ項目の競争力評価マトリックスにおける位置を読み取ることによって、産業レベルの戦略的方策は、教育システム、人材開発、科学技術基盤、マーケティング、マネジメント、研究開発、国際化、法規制、および専門組織等を改善すること、企業レベルの戦略的方策は、組織の特性、政府の影響力、組織構造と利害関係者、経済財政的安定性等を改善すること、プロジェクトレベルの戦略的方策は、プロジェクトの品質と有効性、現場マネジメントの効率性、安全管理および福利厚生、プロジェクトの財務、人材、工期の厳守等を改善すること等、各々のレベルの戦略的方策を明示的に提言している。

本論文における、タイ国建設産業の国際競争力を評価する手法および競争優位を目指した戦略的方策を明示する枠組みに関する研究成果は、タイ国のみならず他国の建設産業の国際競争力復権の実現のために、極めて独創的で斬新な数多くの有益な知見と示唆に富むものと認められる。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。